

全国主要大学における麻疹に対する取り組み状況 に関する調査報告書（暫定版）

京都小児科医会 竹内宏一、藤田克寿、清沢伸幸
京都市学校医会 長村吉朗、林 鐘声
日本小児科医会 及川 肇、峯 真人

【はじめに】

今月の4月から、中学1年生(第Ⅲ期)および高校3年生(第Ⅳ期)年齢相当の子どもたちに対して、麻疹ワクチンを5年間の期間限定で定期接種化され公費によるワクチン接種が可能となった。しかし、その接種率は極めて悪く12月の中間報告では第Ⅲ期が56.4%、第Ⅳ期が47.6%と60%に満たない状況であった。欧米諸国の学校では麻疹ワクチンの2回接種を含めて麻疹に対する免疫があることが入学条件となっており、その結果として高い接種率が維持され、麻疹は撲滅した状態になっている。第Ⅳ期の接種率を向上させるために、進路先である大学において麻疹に対する取り組み状況を公開することによって、接種率の向上の手がかりになることを願って今回の調査を企画した。

【対象および方法】

対象は学生数が2000名以上の主要大学と、2000名未満ではあるが医学部のある大学とした。医学部のある大学が80、ない大学が32の計112大学が対象となった。方法は麻疹の取り組みに関する簡単な設問(参考資料)を設けて各大学に郵送した後、はがきにて回収を行った。なお、回答期限終了後に1回の督促を行った。大学の所在地から北海道・東北地区、関東地区、北陸・甲信越・東海地区、近畿地区、中国・四国地区、九州地区の6地区に分けて検討を行った。

【結果】

112大学のうち107学校(95.5%)から回答があり、医学部のある大学が80校中77校(96.3%)、ない大学が30校(93.8%)であった。地区別にみると北海道・東北地区、近畿地区、中国・四国地区、九州地区は100%の回答率であった(表1)。

(表1) 主要大学における麻疹に対する取り組み状況についての調査

医学部の有無	対象数	回答あり	未回答	回答率
医学部あり	80	77	3	96.3%
医学部なし	32	30	2	93.8%
北海道東北地区	10	10	0	100.0%
関東地区	41	37	4	90.2%
北陸甲信越東海地区	18	17	1	94.4%
近畿地区	21	21	0	100.0%
中国四国地区	10	10	0	100.0%
九州地区	12	12	0	100.0%
総計	112	107	5	95.5%

(1) 麻疹に対する取り組み状況 (表2) (図1)

麻疹に対して大学、学校として取り組んでいるかという質問に対して、すべて「はい」であった。その時期としては1校の流行時のみを除けば、入学前からが81校(75.7%)で、入学後が22校(23.4%)であった。医学部のある大学では入学前からが59校(76.6%)で、入学後が18校(23.4%)であった。医学部のない大学では、入学前からが22校(73.3%)で、入学後が7校(23.3%)と医学部の有無で入学前後の取り組みの割合に差はなかった。

(表2) 麻疹に対する取り組みとその時期について

医学部の有無	対象数	関与している		その他	無関与
		入学前から	入学後に		
医学部あり	77	59 76.6%	18 23.4%	0 0.0%	0 0.0%
医学部なし	30	22 73.3%	7 23.3%	1 3.3%	0 0.0%
北海道東北地区	10	6 60.0%	4 40.0%	0 0.0%	0 0.0%
関東地区	37	25 67.6%	12 32.4%	0 0.0%	0 0.0%
北陸甲信越東海地区	17	13 76.5%	4 23.5%	0 0.0%	0 0.0%
近畿地区	21	17 81.0%	3 14.3%	1 4.8%	0 0.0%
中国四国地区	10	10 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
九州地区	12	10 83.3%	2 16.7%	0 0.0%	0 0.0%
総計	107	81 75.7%	25 23.4%	1 0.9%	0 0.0%

その他は流行時に関与

地区別に入学前からの取り組んでいる割合をみると、北海道・東北地区では60.0%、

関東地区では 67.6%、北陸・甲信越・東海地区では 76.5%、近畿地区では 81.0%、中国・四国地区では 100%、九州地区では 83.3%と西日本のほうが東日本に比較して入学前からの取り組みが高い割合となっていた。

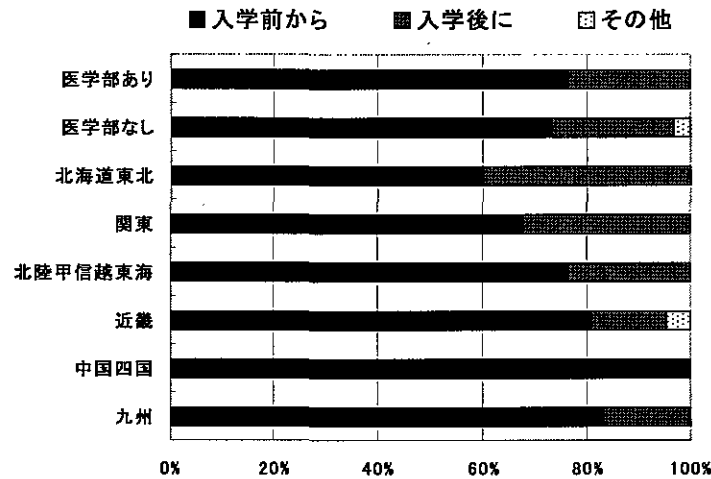


図1 麻疹に対する取り組み

(2) 麻疹に対する取り組み内容について (表 3)

麻疹に対する取り組みとして、既往歴・予防接種歴調査と麻疹ワクチンの接種指導について質問した。既往歴・予防接種歴調査では医学部のある大学は無回答の 1 校を除いた 66 校 (86.8%) が、医学部のない大学では無回答の 1 校を除いた 22 校 (75.9%) が「はい」の回答であった。

(表3) 麻疹に対して取り組んでいる内容について

医学部の有無	既往歴調査について		接種指導について	
	している	していない	している	していない
医学部あり	66	10	76	1
	86.8%	13.2%	98.7%	1.3%
医学部なし	22	7	28	0
	75.9%	24.1%	100.0%	0.0%
北海道東北地区	8	2	10	0
	80.0%	20.0%	100.0%	0.0%
関東地区	33	4	36	0
	89.2%	10.8%	100.0%	0.0%
北陸甲信越東海地区	14	2	17	0
	87.5%	12.5%	100.0%	0.0%
近畿地区	14	6	19	1
	70.0%	30.0%	95.0%	5.0%
中国四国地区	9	1	10	0
	90.0%	10.0%	100.0%	0.0%
九州地区	10	2	12	0
	83.3%	16.7%	100.0%	0.0%
総計	88	17	104	1
	83.8%	16.2%	99.0%	1.0%

既往調査、接種指導割合は無回答を除いて計算

地域別に「はい」の回答割合をみると、北海道・東北地区では 80.0%、関東地区では 89.2%、北陸・甲信越・東海地区では 87.5%、近畿地区では 70.0%、中国・四国地区では 90.0%、九州地区では 83.3%であった。近畿地区が最も低い割合であった。

麻疹ワクチンの接種指導について、医学部のある大学は 76 校(98.7%)、医学部のない大学では無回答の 2 校を除きすべてが、「はい」の回答であった。地域別に「はい」の回答割合をみると、北海道・東北地区、関東地区、北陸・甲信越・東海地区、中国・四国地区、九州地区では 100%で、近畿地区のみが 95.0%であった。

(3) 麻疹の既往歴が学業参加条件としているかについて (表 4) (図 2)

麻疹に対する免疫力の有無が学業(授業、クラブ活動、課外学習、学外実習等)における参加条件としているかということについて質問を行った。麻疹に対する免疫力があることが何らかの学業において参加条件としていると回答があったのは医学部のある大学では無回答の 1 校を除いた 43 校(56.6%)が、医学部のない大学では無回答の 2 校を除いた 13 校(46.4%)であった。

地域別に「参加条件としている」という回答割合をみると、北海道・東北地区では 50.0%、関東地区では 47.2%、北陸・甲信越・東海地区では 82.4%、近畿地区では 47.4%、中国・四国地区では 40.0%、九州地区では 63.6%であった。北陸・甲信越・東海地区が最も高く、中国・四国地区の 2 倍の割合であった。

(表4) 麻疹に対する免疫力の有無が学業参加条件にしているかに関して

医学部の有無	関与学校数	授業、クラブ、課外活動		無回答	「別掲」 授業と回答
		一部参加条件	条件とせず		
医学部あり	77	43 56.6%	33 43.4%	1	23 29.9%
医学部なし	30	13 46.4%	15 53.6%	2	6 20.0%
北海道東北地区	10	5 50.0%	5 50.0%	0	1 10.0%
関東地区	37	17 47.2%	19 52.8%	1	7 18.9%
北陸甲信越東海地区	17	14 82.4%	3 17.6%	0	5 29.4%
近畿地区	21	9 45.0%	11 55.0%	1	9 42.9%
中国四国地区	10	4 40.0%	6 60.0%	0	3 30.0%
九州地区	12	7 63.6%	4 36.4%	1	4 33.3%
総計	107	56 53.8%	48 46.2%	3	29 27.1%

実際にどの学業について参加条件としているかについてみると、授業としていたのは医学部のある 23 校(29.9%)であり、医学部のない大学では 6 校(20.0%)であった。

授業との回答はなかったものの、全員抗体検査や麻疹に対する免疫力の有無の提出を義務付けしているより麻疹に対する取り組みの厳しい大学が4校あり、いずれも医学部のある大学であった。

しかし、授業と回答があっても、医学部や看護学部などの医療系に学部限られている大学が多く、大学全体としては先の4校を加えた数校に過ぎなかった。授業以外では教育実習、海外研修、介護体験、病院実習、施設実習に限られており、多くは学外での実習や見学に関するものであった。

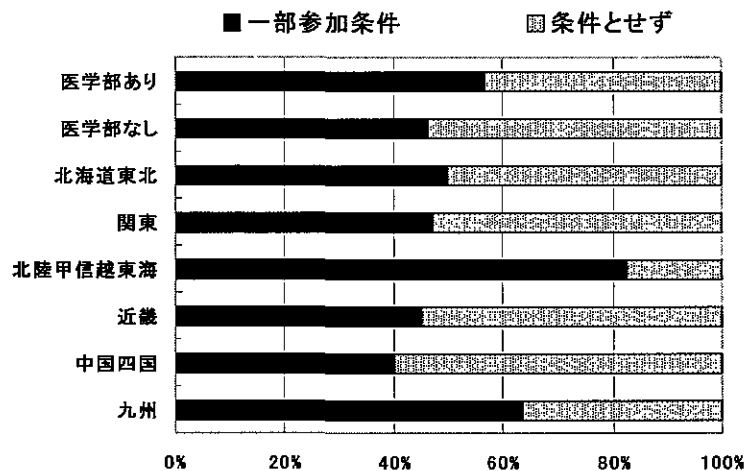


図2 麻疹に対する免疫力と学業参加条件

(4) 麻疹の2回接種について (表5) (図3)

麻疹の2回接種の必要性について、「麻疹ワクチンを2回接種していることを希望されますか?」という質問に対して「はい」という回答があったのは、医学部のある大学では63校(84.0%)が、医学部のない大学では27校(93.1%)であった

(表5) 麻疹ワクチンの2回接種について

医学部の有無	2回接種希望		2回希望せず		総計
医学部あり	63	84.0%	12	16.0%	75
医学部なし	27	93.1%	2	6.9%	29
北海道東北地区	7	70.0%	3	30.0%	10
関東地区	34	97.1%	1	2.9%	35
北陸甲信越東海地区	14	82.4%	3	17.6%	17
近畿地区	15	75.0%	5	25.0%	20
中国四国地区	9	90.0%	1	10.0%	10
九州地区	11	91.7%	1	8.3%	12
総計	90	86.5%	14	13.5%	104

無回答を除いて計算

医学部のない大学の方に、「はい」の割合が高くなっていった。全員抗体検査をする医学部のある大学では2回接種を希望しないという回答が2校みられた。

地域別に「はい」という回答割合をみると、北海道・東北地区では70.0%、関東地区では97.1%、北陸・甲信越・東海地区では82.4%、近畿地区では75.0%、中国・四国地区では90.0%、九州地区では91.7%であった。関東地区では1校を除いて、残りの34校において「はい」の回答であった。

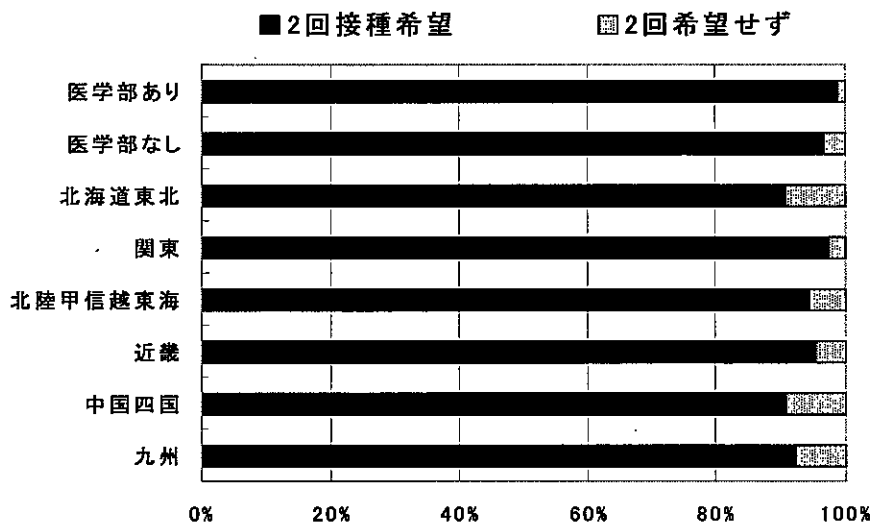


図3 麻疹ワクチンの2回接種について

【考案】

平成19年の春、大学生において麻疹の大流行があり、多くの大学が閉鎖に追い込まれた。私達小児科医はこのような事態が起こることを以前から予測し、世界的には麻疹ワクチンの2回接種が標準となっており、我が国においても麻疹ワクチンの2回接種の必要性を主張してきた。平成18年から1歳時(I期)と小学校入学前1年間(II期)の計2回接種が定期接種とされ、ようやくとして幼児については世界レベルに到達したが、残された年代もなるべく早期に追加接種すべきと厚生労働省に対して要望を行ってきた。先に触れた高校生や大学生における流行もあって、平成20年からは5年間の移行措置として中学生1年生(III期)と高校3年生(IV期)の年齢相当時に公費による接種が行われることになった。しかし、学業における忙しさもあってか、平成20年12月の中間報告では第III期が56.4%、第IV期は47.6%と第IV期では50%に満たない状況であった。特に、東京都、大阪府、神奈川県、埼玉県、京都府など大都市圏での接種率が下位に位置しており、早急な接種率向上に向けた対策が必要となっている。

欧米諸国では麻疹ワクチンの接種が学校の入学条件となっており、その結果とし

て高い予防接種率を維持しており、撲滅された状態になっている。平成 20 年度は 1 万人以上の麻疹が発生しており、日本は麻疹の輸出国として揶揄されている。隣国韓国ではすでに麻疹撲滅宣言をしており、わが国も麻疹撲滅宣言ができるように色々な努力がなされている。

一方、わが国の医療人の一部において麻疹は自然に罹患したほうが良いという意見もある。しかし、麻疹は脳炎等の合併症を併発する危険性が高く、本邦では今年になって 8 名の脳炎患者が報告されており、発展途上国では栄養状態が悪く、医薬品が不足していることから数万人のこども達が麻疹で死亡している。麻疹は決して罹患してよい病気ではなく、予防が可能な感染症であることから、発病させてはいけない病気であることを前提として、麻疹ワクチン 2 回接種の向上に向けた方策をとるべきである。

残念ながら行政や医療側が麻疹ワクチンの必要性をいくら熱心に呼びかけても、本人や家族が接種の必要性を自覚しない限り、接種率の向上は望めない。最近の流行や脳炎患者の特徴から中高校生、大学生の世代に多いことから、まず、高校 3 年生年齢相当のこども達の麻疹接種率向上に向けて、進路先と考えられる大学や専門学校、各種学校における麻疹に対する取り組み状況を紹介することによって、一人でも多くの接種対象者が接種するきっかけになることを期待して、京都の大学、専門学校、各種学校に引き続いて今回の調査を行った。

調査対象は学生数が 2000 名以上の大学と医学部のある大学を選んだ。調査方法は京都での結果を参考資料として、質問は簡便でわかりやすくし、回答用紙ははがきとした。

医学部のある大学 80 校に医学部のない大学 32 校を加えた計 112 校に調査票を郵送したところ、2 月 10 日時点で 107 校から回答が得られた。回答率は 95.5%と極めて高率であった。地区別にみると北海道・東北地区、近畿地区、中国・四国地区、九州地区では 100%の回答率であった。

麻疹に対する取り組みは回答のあったすべての大学で取り組まれていた。流行期という回答のあった 1 校を除き、その時期として、入学前から 75.5%もあった。医学部のある大学が 76.6%で、医学部のない大学が 73.3%と医学部の有無で差はみられなかった。地域別にみると北陸甲信越東海より北部の地域よりも近畿より以西の地域の方が入学前取り組みの割合が高くなっていた。取り組み内容として、既往歴調査や麻疹ワクチンの接種指導についてみると、既往歴調査は 83.8%で医学部のある大学が 86.8%、ない大学が 75.9%と医学部のある大学で割合が高くなっていたが、麻疹ワクチンの接種指導は医学部のある 1 大学を除いてすべて「はい」の回答であった。

最も重要な質問事項である麻疹の免疫力の有無が学業参加の条件としているかという質問に対して「授業」と回答があったのは医学部のある大学で 29.9%、医学部のない大学で 20.0%であった。「授業」という回答がなされていないものの、全員の抗体検査や麻疹に対する免疫力の有無を提出させている大学が 4 大学ありいずれも

医学部のある大学であった。一方、同じ医学部があっても全く学業参加条件とせず、麻疹ワクチンの2回接種も希望しないという回答もあった。将来、医師として勤務することは麻疹の感染を受ける機会が多くなるだけでなく、自分が感染した場合、病気の人に感染を広げる危険性があり、個人の問題だけでは終わらない。それゆえ、医学部のある大学では少なくとも病院や施設での実習が始まる前に麻疹に対する免疫力は獲得させておくべきである。医学部を含む総合大学では医療系の学部において、医学部のない大学においては学外研修、教育実習、介護体験や海外留学などで参加条件としているとされていた。

麻疹ワクチンの2回接種は麻疹に対する免疫力を獲得させるのに最も確実な方法である。世界的にみても麻疹の2回接種が標準となっている。しかし、わが国では長く1回接種のみでよしとされてきた。その結果、麻疹の流行時期に育った年代は自然麻疹によって、抵抗力の潜在的な増強がなされていたが、乳幼児期の麻疹ワクチン1回接種率向上によって、麻疹の流行が少なくなると、潜在的な増強がなされなくなり、1回接種をしていたとしても時間がたつにつれて免疫力が低下し、未接種者を含めて集団としての免疫力低下により昨年からみられるような高校生、大学生における流行が起こった。それゆえ、2回接種が必要なことは自明のことである。2回接種を希望しますかという質問に対して、全員抗体検査をすることから2回接種を希望しないという1大学を除いて、医学部のある大学で12大学(16.0%)、医学部のない大学において2大学(6.9%)と医学部のある大学のほうがその割合が高いことは大学病院小児科から十分な情報提供ができていないことにつきると考える。

今回の調査結果を、マスコミやインターネットを通じて全国の高等学校に対して、大学名を含めて公表することにしている。これは受験生に対して、大学に入ってから麻疹ワクチン接種の必要性を認識させるだけでなく、高校を卒業して進学してから接種するのでは自費となり1万円前後の費用が必要になることを喚起することにもある。それとともに、第Ⅳ期の麻疹ワクチン接種を担任や養護の教諭だけでなく、学校長、進路指導担当の教諭など学校全体として取り組んでいただくことを目的としている。

今回調査対象となった大学においてひとたび麻疹が流行すれば、一昨年のように大学を閉鎖しなければならない事態になる。今後、各大学、学校において受け入れ学生、生徒の麻疹に対する免疫力の有無が入学条件とならないまでも、授業を含めた学業参加の条件になることを願っている。もし、各大学がそのようになっていけば、第Ⅳ期の麻疹ワクチン接種の必要度が高まり、接種率の向上が期待できる。平成20年度は現役生のみが定期接種の対象者となるが、来年度は現役、一浪がその対象者となっており、学業参加条件に加えても、今までとは違い、家族や本人に対する負担は少なくなるであろう。

この調査は学生数の多い大学と医学部のある大学を対象としたが、第Ⅳ期の麻疹ワクチン接種率向上のためにはより多くの大学において調査が必要である。できれば、来年度もより多くの大学を含めた調査を実施したいと考えている。

【まとめ】

全国の学生数 2000 名以上および医学部のある大学 112 大学に麻疹に対する取り組み状況について調査を行った。

(1) 医学部のある 80 大学のうち 77 大学 96.3%、医学部のない 32 大学中 30 大学 93.8% から回答が得られた。

(2) 麻疹に対する取り組みとして、すべての大学が取り組んでおり、75.7%において入学前から取り組まれていた。麻疹の既往歴調査が 83.8%で、麻疹ワクチンの接種指導が 99.0%であった。

(3) 麻疹に対する免疫力の有無が学業（授業、クラブ活動、課外学習、学外実習等）における参加条件としているかということについて、医学部のある大学では 56.6%、医学部のない大学では 46.4%が「はい」の回答で、授業としていた大学は 27.1%あった。医学部しかない単科大学においても参加条件としないという回答があった。

(4) 麻疹の 2 回接種の必要性について、医学部のある大学では 84.0%、医学部のない大学では 93.1%が希望していた。医学部のある大学で希望しないという回答が 16.0%もあったことは大学の学生用の健康管理センターに対する小児科の情報提供不足によるものと考えられる。

これらの結果を、マスコミ、インターネットを通じて公表し、学校長、進路指導担当教諭、担任、養護教諭から第Ⅳ期の麻疹ワクチン接種指導の一助にしたい。

【おわりに】

今回の調査に協力いただきました、大学関係者の方々に厚くお礼申し上げます。なお、大学名の公表はこの調査の開始段階から了解を得る形で行っており、大学名公表前に各大学の校正を受け、了承を得ていることから、この調査資料が幅広く利用されることを願う。

来年も同様の調査を行いたいと考えています。このような調査を繰り返すことによって、大学、専門・各種学校における麻疹に対する取り組みの向上を願うとともに、各高等学校にその調査結果をフィードバックすることによって、第Ⅳ期の麻疹ワクチン接種率の向上に努めたいと考えています。来年もご協力よろしく申し上げます。

【参考資料】 アンケートの内容

麻疹に関するアンケート調査

麻疹に関して調査や指導をしておられますか？

- 1 入学前からしている
- 2 入学後にしている
- 3 入学前も入学後も何もしていない

している場合どういうことをしておられますか？

麻疹の既往歴や予防接種歴を聞いておられますか？

(はい、いいえ) (入学前、入学後)

麻疹に免疫がない場合、ワクチン接種を指導していますか？

(はい、いいえ) (入学前、入学後)

麻疹に免疫があることを学業参加条件としていますか？

(はい、いいえ) (授業、クラブ、課外活動)

麻疹ワクチンを2回接種していることを希望されますか？

(はい、いいえ)

回答者施設名

所属

氏名

14 小説 5
 2 短歌・俳句 5
 7 文化 6
 14 KODOMO 7 8 9 10
 15 商況 12 13

夕刊 読賣新聞

発行所: 読売新聞東京本社 行方00-8055 東京都千代田区大手町1-7-1 電話(03)5561-1111 www.yomiuri.co.jp

大学入るなら 予防接種

■主要校8割 感染対策求める

【本紙記者取材】はしかの予防接種は努力義務との位置づけで、接種率は06年度の1歳児で約80%。流行を抑えるのに必要とされる接種率95%に達していない。昨年の患者数は約1万1000人に上り、国際的には「はしか大国」との汚名も着せられている。一方、米国では、ほとんどの小学校で入学前にははしかの2回接種を義務づけられており、2006年の患者数はわずか66人だった。

はしか

大学生のはしか流行が問題になっているが、全国の主な大学の8割が、来年度の入学予定者に対し、入学前の感染予防対策を求めることが日本小児科医学会などの調査でわかった。予防接種済み証明書などの提出を義務づける大学もある。国は今年度から高校3年生全員に、はしかワクチンの追加接種を始めたが、接種率は5割未満と低迷。受験シーズンを迎え、同医学会では「接種率の向上につながるのでは」と期待している。

神戸大 全員に証明義務

20歳前後の若者へのはしかの流行は2007年に、関東や近畿を中心に約80大学が1週間〜2週間程度の休講を余儀なくされるなど、問題になっている。近年、問題になっている。神戸大学では、来年度の入学予定者全員に、はしかの予防接種履歴の調査を行う。接種指導など「入学後に受けよう指導する」大学は51校(55%)、「感染や予防接種履歴の調査を行う」大学は41校(44%)だった。接種指導など「入学後に受けよう指導する」大学も48校(52%)あった。はしかの予防接種履歴は従来、1回接種だったが、予防効果が不十分なことから、2006年度から1歳と小学校入学前の2回接種を合わせた。ほとんどの大学が対策を予定。はしかの免疫があることを教育実

習や病院・介護実習などの参加条件とする大学も48校(52%)あった。はしかの予防接種履歴は従来、1回接種だったが、予防効果が不十分なことから、2006年度から1歳と小学校入学前の2回接種を合わせた。ほとんどの大学が対策を予定。はしかの免疫があることを教育実

習や病院・介護実習などの参加条件とする大学も48校(52%)あった。はしかの予防接種履歴は従来、1回接種だったが、予防効果が不十分なことから、2006年度から1歳と小学校入学前の2回接種を合わせた。ほとんどの大学が対策を予定。はしかの免疫があることを教育実

た。「予防接種を受けてから免疫ができるのは、2週間程度かかる」として、北海道大は「現役合格者には入学式の2週間前までに接種を受けるよう通知。浪人生には大学の費用負担で検査や予防接種をすることなどを検討中」という。東大は募集要

